淫魔の領域2
《淫獣幻夢クロニクル》
DIGITAL
for ADULT ONLY
Hiroshi KAJIYAMA
HQ's

ずいぶん前に
親戚に家へ
遊びに行ったとき

やることもなく
退屈していたので

時間つぶしにと
物置にあった
古い雑誌を
手にしたのです

それは
SM専門の
古い月刊誌で

奥付は
私が生まれる
ずっと前の日付

すべてのページが
異常な性行為を
描写した文章と挿絵で
埋め尽くされていて

気が付くと
夢中になって
読みふけっていました

SAMPLE

その雑誌を
読んだ事が

私が官能小説を
書くようになった
きっかけです

淫魔の領域2

〔淫獣幻夢クロニクル〕

原案
淫獣幻夢　from The DRAKSIDE　script.2 [岡本瞳：図書室にて]

SAMPLE

普段は「犯す側」
つまり男性視点で
想像しながら
書いてるのだけど
SEXシーンを
書くときは
犯される側の
女の子に感情移入を
しながら書くことも
あります
そういうときは
まるで自分と
SEXしているみたいで
すごく奇妙な気持ちに
なります
カチャ
カチャ

そういう場面を
書きながら
いろいろ妄想してると
段々興奮してきて
我慢できなく
なる事があります
カチャ
カチャ
そんなときは
いつも
キョロ…

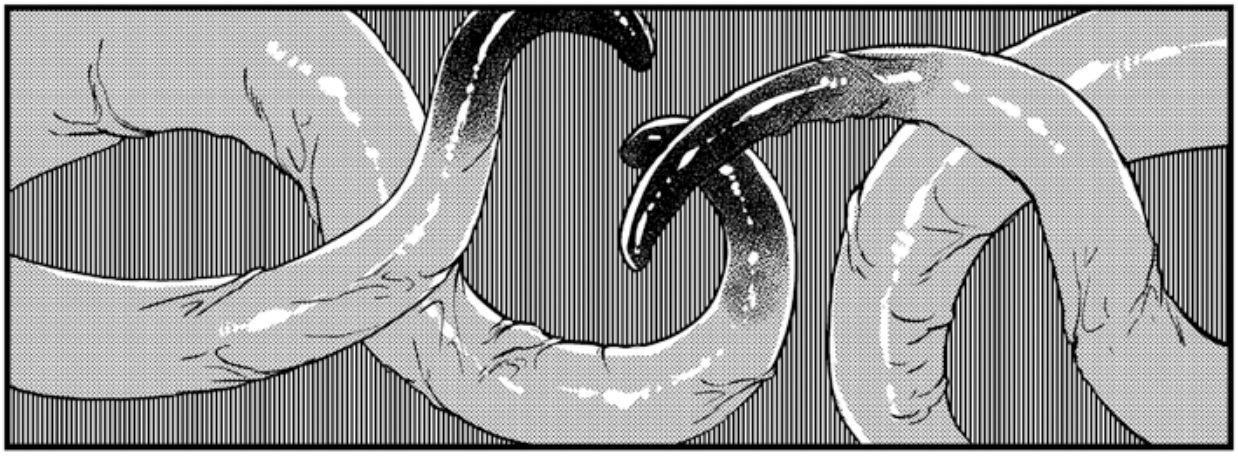
ちょっとだけ…
いまなら人も
いないし…
すこしだけ…
そんなに
時間は
かからない
SAMPLE

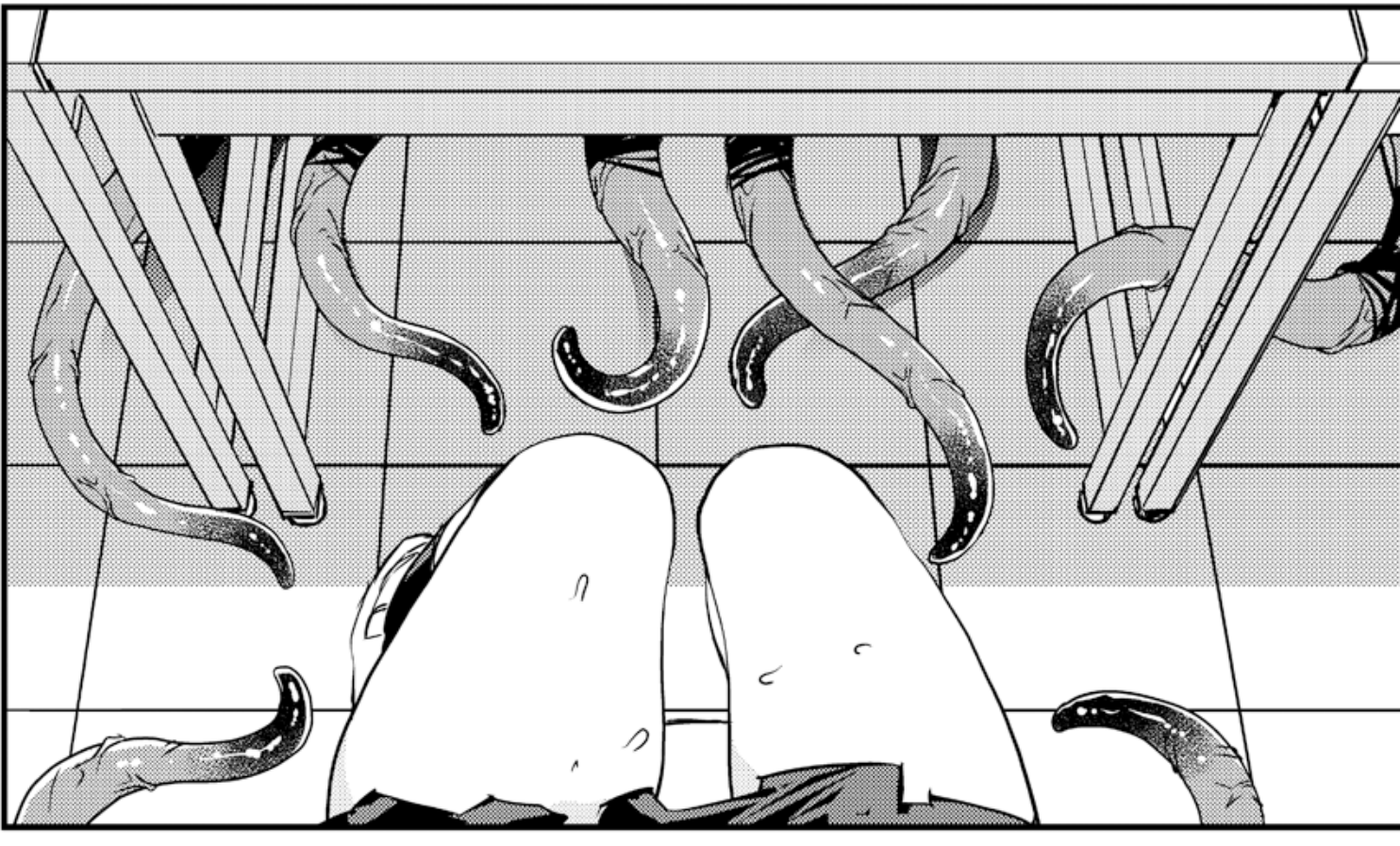
SAMPLE

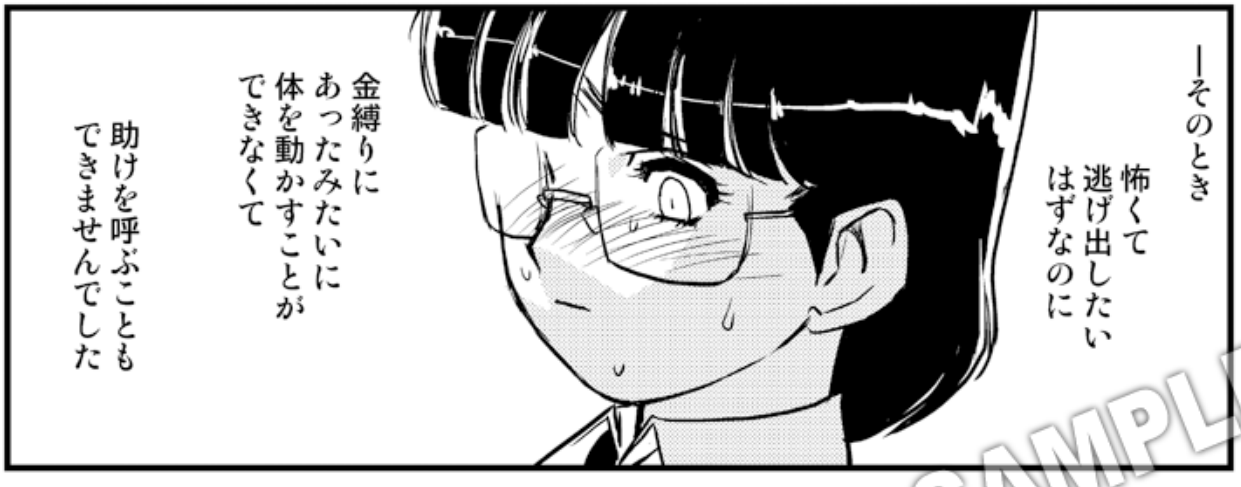
あは
はぁ…
ぎゅ
もぞ
キュッ♡
スルッ…
くちゅ…
んふ…
はぁっ
スル…
SAMPLE

ん!
なっ
んっ
ぐんっ
なっ
なっ
んぁ
んっ
ぐんっ
んっ
ぐんっ
くちゅ
ぐん
ぐん
SAMPLE

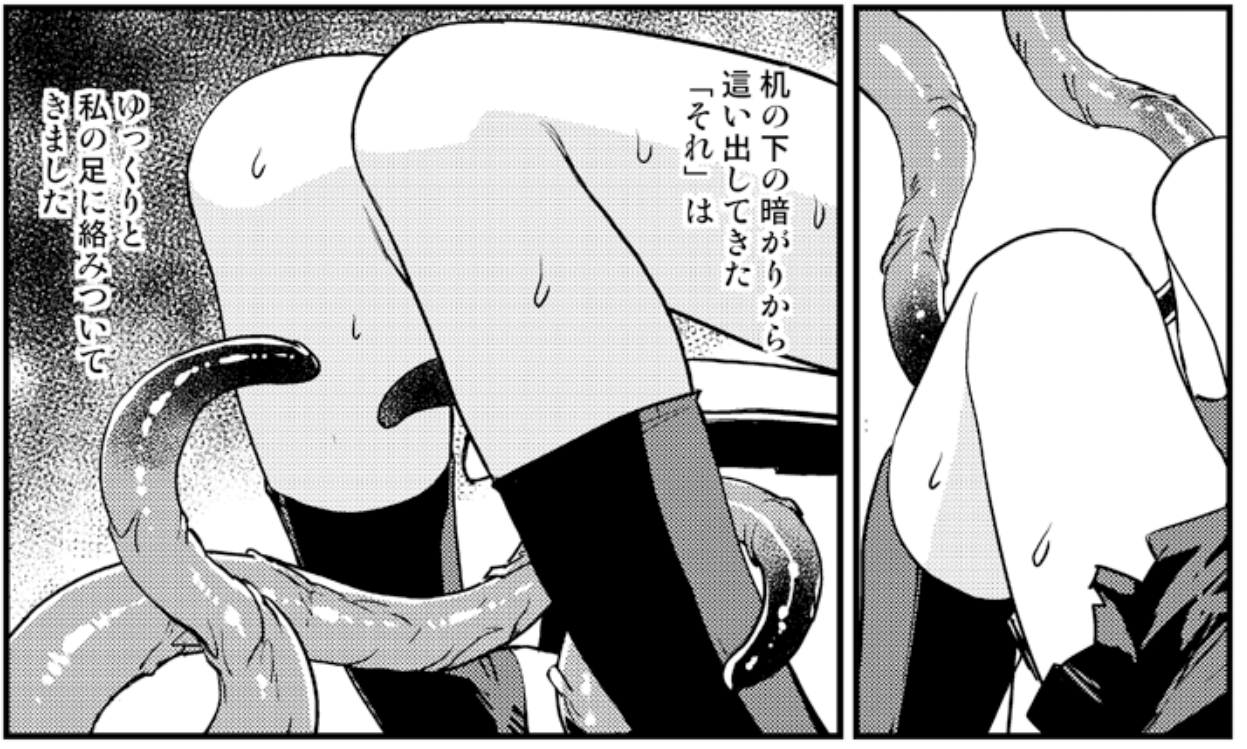
その瞬間―
なにもかも
どうでもよくて
ただ「達したい」
という気持ち
呼吸が
止まりそう
何かが
通り過ぎた後の
恍惚―
学校でこんな事を
しているという
後ろめたさ
…その後は
―そんな
快感の名残を
感じているときに
足下に
なにか異様な物の
気配が―






―そのとき
怖くて
逃げ出したい
はずなのに
金縛りに
あったみたいに
体を動かすことが
できなくて
助けを呼ぶことも
できませんでした

SAMPLE


机の下の暗がりから
這い出してきた
「それ」は
ゆっくりと
私の足に絡みついて
きました

肉色をした
「それ」は
以前読んだ
ホラー小説にでてきた
異世界の生き物に
そっくりでした

SAMPLE

The Injiyû Genmu Chronicles

Jurisdiction of Lechery Evil Spirits